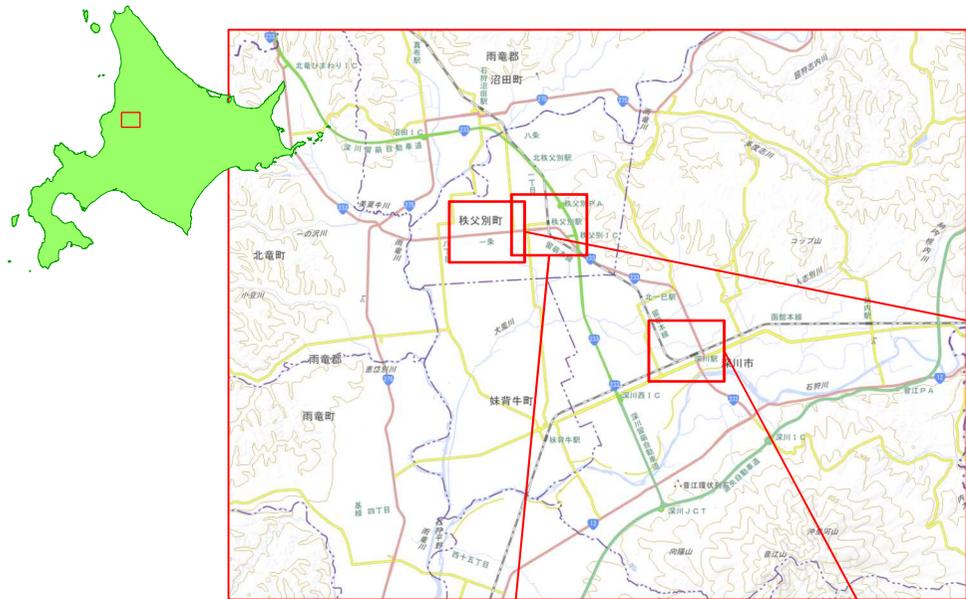


# 参考資料(地域構造関連)

---

平成27年3月26日

# 1. 基礎圏域のイメージ-生産空間「農業」(稲作)



【生産空間：秩父別町】



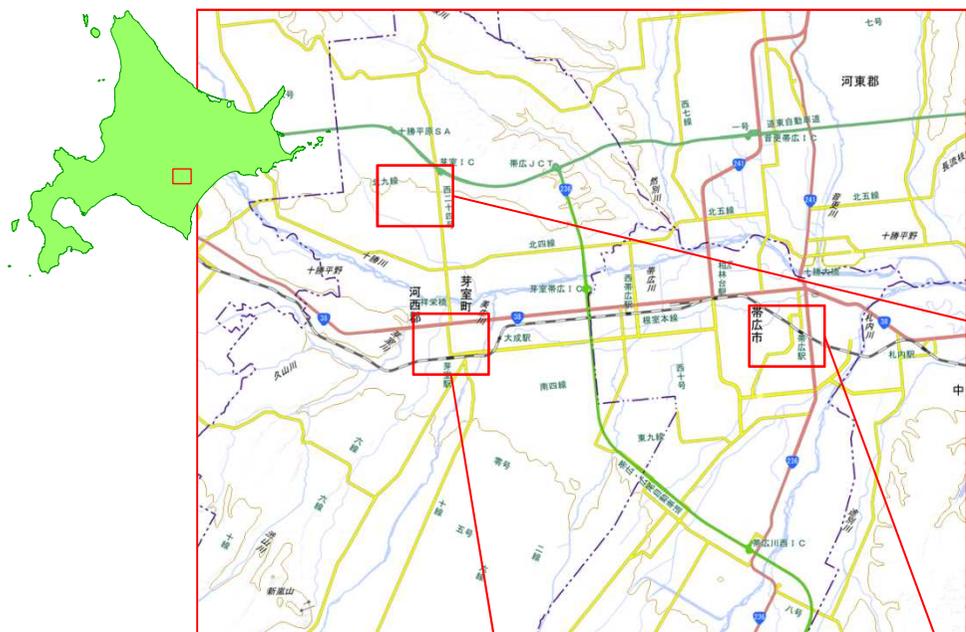
【市街地：秩父別町】



【圏域中心都市：深川市】



# 1. 基礎圏域のイメージ-生産空間「農業」(畑作)



【生産空間：芽室町北芽室】



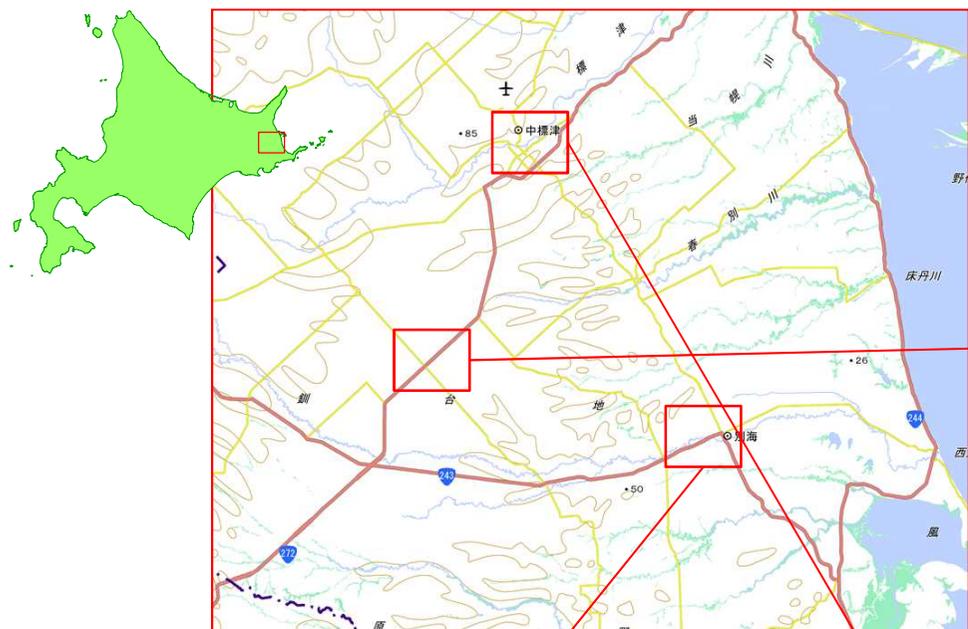
【市街地：芽室町】



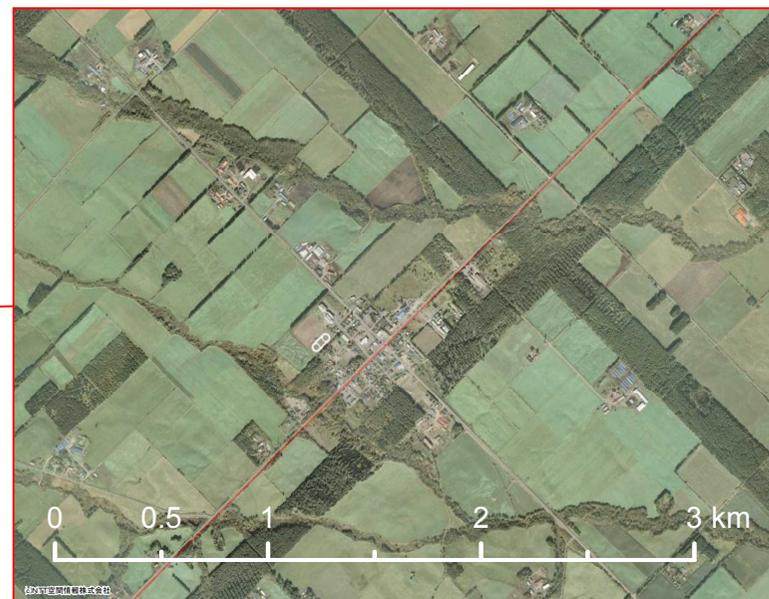
【圏域中心都市：帯広市】



# 1. 基礎圏域のイメージ-生産空間「酪農」



【生産空間：別海町上春別】



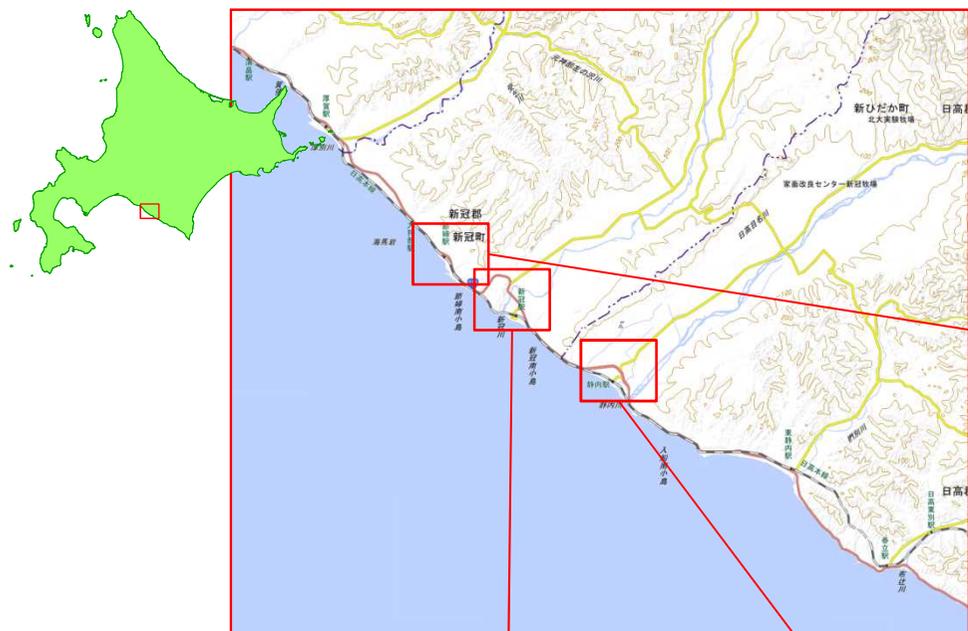
【市街地：別海町】



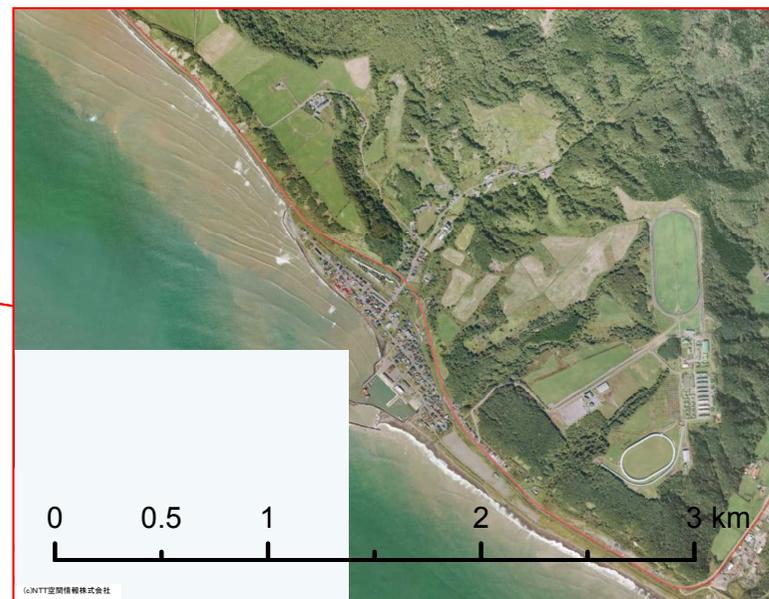
【圏域中心都市：中標津町】



# 1. 基礎圏域のイメージ-生産空間「漁業」



【生産空間：新冠町節婦町】



【市街地：新冠町】



【圏域中心都市：新ひだか町】



# 施策例)散居形態をなす生産空間における生活機能の維持

## ○ 移動販売や買い物代行などの交通弱者支援対策。

### 【事例】物流サービスと高齢者見守り等の連携(幌加内町)

【幌加内町における買い物支援】

- 幌加内町では、平成25年7月に運送事業者と協定を締結し、買い物支援及び高齢者見守り事業を実施
- 対象世帯には、情報端末と商品カタログが配布され、端末に入力すると翌日の夕方に宅配される
- 端末には「人感センサー」が内蔵されており、人体の動きの有無を町・社会福祉協議会・運送事業者のPCで確認できる
- 利用者の感想は大変好評であり、利用頻度も高く、将来的には対象世帯の拡大も検討されている



出典：ヤマト運輸資料より

【取組フロー】



出典：国土交通省「山間過疎地等における物流事業者と地方自治体等との連携事例」を基に北海道局作成

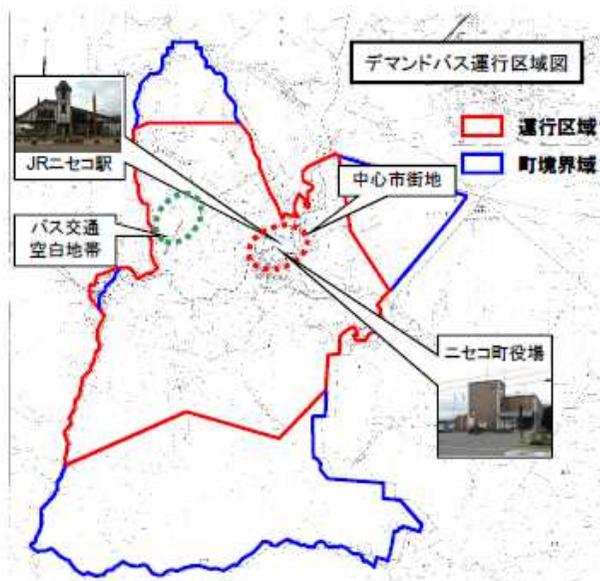
# 施策例) 広域分散型の地域構造を支える交通ネットワークの維持

## ○ 通院需要等に対応する公共交通の維持・再編。

### 【事例】デマンド型乗合バスの導入(ニセコ町)

- ニセコ町では、これまで「スクールバス」、「福祉バス」、「一部の路線バス」を整理統合して町内循環バスを運行してきたところ。
- しかしながら、利用者が減少する一方で交通弱者が増加し、交通空白地帯も出てきたことから、循環バスを廃止し、新たに町内全域を対象にデマンドバスを導入。
- 事前に予約を行えば、町外の者や観光客も利用可能であるなど、サービスの向上に努めている。

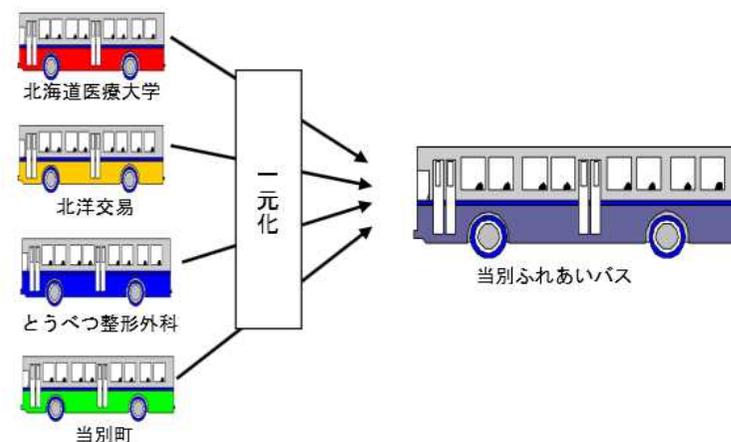
#### 系統路線図(イメージ図)



出典: 国土交通省「地域公共交通活性化事例集」

### 【事例】官民共同運行コミュニティバス(当別町)

- 南北に細長く、二つの市街地の周りに広大な農地と住宅が点在している当別町では、乗り合いバスが2路線のみで総合的なバス路線が存在していなかった。
- そこで、公共交通課題解消のため、町内で独自目的に運行していた官民4事業者を一元化し、「当別ふれあいバス」として平成18年より実証運行事業を実施。
- 平成19年度からは公共交通活性化協議会を設置し、全国的にも例がない「官民共同による運行」として運行している。
- 利用促進に向け、利用感謝ツアー等のイベント、モビリティマネジメントの実施、認知度を高めるため交通マップの作成やニュースレターの定期発行等に取り組んでいる。



出典: 当別町「当別町地域公共交通総合連携計画」他を基に北海道局作成

## 施策例) 広域分散型の地域構造を支える交通ネットワークの維持

### ○ 貨客混載など人口低密度地域における人流・物流システムの構築。

#### 【事例】諸外国における貨客混載の取組(イギリス)

- イギリスのポストバスは、郵便集配車が、高齢者や障害者を乗せて、集落と地方都市との間を輸送するバスで、郵便集配と住民輸送という2つのサービスを1台のバスで一度に提供する交通サービス
- 事業の採算性のとれない過疎地域では赤字路線から民間バス事業者撤退が懸念されたことから、自治体が「補助金入札制」を導入したことが始まり
- 各地で郵便集配業を運営する公益企業が旅客も担うことで他の事業者に比べて低コストで落札し、地域交通の担い手として重要な役割を果たしている

【イギリスのポストバス】



出典: 国土交通省「多自然居住地域の創造に資する異分野連携による新たな交通サービスの提供方策」を基に北海道局作成

#### 【事例】ポストバスの運行(スイス)

- スイスのポストバスは、1900年代初頭、郵便配達用の馬車に旅客を乗せて走ったことにルーツを持ち、現在798路線・10,363キロを約2000台のバスが走行し、年間約1億人の乗客を運んでいる。
- 地域住民の交通手段としての役割だけでなく、鉄道だけではアクセスできない隠れた名所や、絶景ルートをカバーしているおり、スイス旅行の要素の中でも欠かせない交通機関のひとつになっている。

【スイスのポストバス】



出典: スイスツアーズHP

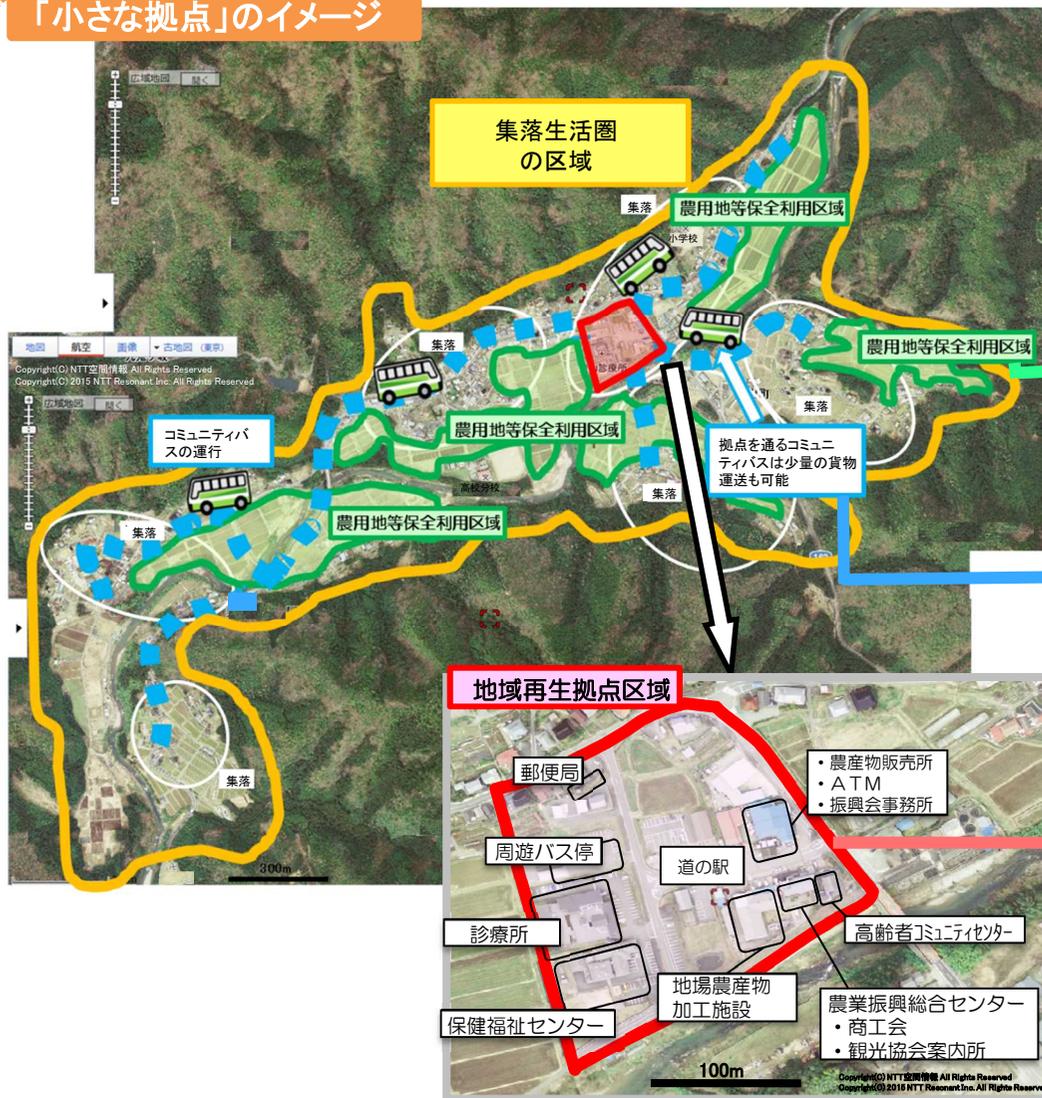
地域再生法の一部を改正する法律案の概要：「小さな拠点(コンパクトビレッジ)」形成関連部分

まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成26年12月27日閣議決定)

内閣府地方創生推進室作成資料を一部編集

- 中山間地域等では、人口減少に伴い、住民の生活に必要な生活サービス機能(医療・介護、福祉、教育、買物、公共交通、物流、燃料供給等)の提供に支障
- ➡ 生活・福祉サービスを一定のエリア内に集め、周辺集落と交通ネットワーク等で結ぶ「小さな拠点」を形成

「小さな拠点」のイメージ



地域再生計画(地方公共団体作成、内閣総理大臣認定)において、地域住民と協議して、小さな拠点づくりの将来ビジョンを作成

I 複数の集落を含む生活圏(集落生活圏)の中に「地域再生拠点」を形成し、生活サービスを提供する施設を集約 **法律**

- 市町村が地域再生土地利用計画に、集約する施設を設定
  - ・生活サービス施設(診療所、保育所、公民館、商店、ガソリンスタンド等)
  - ・就業機会を創出する施設(地場産品の加工・販売所、観光案内所等)
- ➡ 届出・勧告・あっせんにより、施設の立地誘導
- ➡ 農地転用許可のワンストップ・開発許可の特例

II 優良農地の保全・利用を図り、基幹産業である農林水産業を振興 **法律**

- 市町村が、知事、農業関係者等と協議し、地域再生土地利用計画に、農用地等保全利用区域を設定
- ➡ 地域ブランド作物の栽培に係る助言等、必要な援助を実施
- ➡ 計画に即した農地利用を行わないおそれがある場合には勧告

III 集落と地域再生拠点を結ぶネットワークを確保 **法律**

- 市町村が、地域再生計画に、自家用有償旅客運送者が集落生活圏において行う事業を位置付け
- ➡ 自家用車を用いて地域住民を運送する際に少量の貨物も運送可能に
- 集落生活圏内外のネットワークとの連携(バスの乗継拠点の整備等)

IV 生活サービスを提供する担い手を確保 **法律**

- NPO法人、一般財団法人、株式会社等のほか、新たに社会福祉法人等の多様な主体が地域再生推進法人となることを可能に
- ➡ 地域再生戦略交付金の直接の支援対象に

小さな拠点形成のための財政的支援

- 各省予算事業を連携させて、総合的に財政支援
- ➡ 地方版総合戦略に関する施策の実施を明確な政策目標の下で支援 (地方創生先行型交付金【26年度補正予算1700億円】)
- ➡ 既存の補助金等の支援制度の“すき間”を埋めて効果を高める財政支援 (地域再生戦略交付金【26年度補正予算50億円、27年度予算70億円】)

# 施策例) 広域分散型の地域構造を支える交通ネットワークの維持

## ○ 離島交通の安定的な維持・確保。

### フェリー航路の安定性を確保する防波堤等の整備及び老朽化対策

- 離島の人流、物流の大部分を担う港湾は、海路の拠点であり正に生命線である。
- 離島住民の生活安定化や産業振興等を図るため、フェリー航路の安定性を確保する防波堤等の整備や、港湾施設の老朽化対策を推進。

【老朽化が著しい係留施設（稚内港）】



【ボーディングブリッジの整備（鴛泊港）】

### 需要に応じた適切な機材の導入、空港施設の老朽化対策

- 離島住民の生活活動及び経済活動に不可欠な離島航空路の交通事業の経営は厳しい状況にあり、地域交通の維持が困難な状況。
- 離島航空路の路線維持に対する支援を行うことにより、安定した離島交通を確保し、地域内の連携・交流の強化などを支える地域交通ネットワークの形成のため、需要に応じた適切な機材の導入、空港施設の老朽化対策などを推進。

【奥尻空港】



出典：奥尻町HP

【利尻空港】



出典：利尻富士町HP 9

# 施策例)暮らしたい・訪れたいと感じる地域の魅力向上

## ○ 北海道の魅力を活かしたライフスタイルの提示。

### 北海道体験移住「ちょっと暮らし」

- 道内の市町村等が運営主体となり、北海道への移住や二地域居住等を希望している方に対し、生活に必要な家具や家電等を用意し、その地域での生活体験をしてもらう施策。
- 「ちょっと暮らし」を通じて、シーズンステイや二地域居住、完全移住に結びつけていくことがねらい。
- 道や市町村では、移住体験モニターツアー、移住体験をしながらICTを活用し会社の業務を行う「転地型テレワーク」の試行、「農園付移住体験住宅」の貸出などを通じて新たなライフスタイルを提案している。

【雪かき体験】



出典：北見市HP

【冬道運転体験】



出典：弟子屈町HP

【テレワークの試行】



出典：北海道「安全・安心のための移住・二地域居住加速事業報告書」H25.2

【農園付移住体験住宅】



出典：豊頃町HP

【北海道移住までの流れ】



(出典)北海道「北海道暮らし応援ガイド2013」

# 施策例)暮らしたい・訪れたいと感じる地域の魅力向上

## ○ 地域資源・観光資源を活かした交流拡大。

(事例)全道に広がるワインツーリズム

- 北海道は、主にワインとなる加工専用ぶどうの栽培面積、生産量ともに日本一。栽培面積は全国の37%、収穫量は29%を占めている。
- 現在、道央圏を中心に数多くのワイナリーが稼働しており、ヨーロッパやオーストラリアではかねてから盛んであったワインツーリズム(畑を訪れ、ブドウとワイン造りの過程に触れ、土地の風土や文化を感じることを目的にした旅)が注目され始めている。
- 各地では、ワインやワイナリーに加え、それぞれの地域が有する景観や食などの資源と組み合わせた取り組みが展開されている。

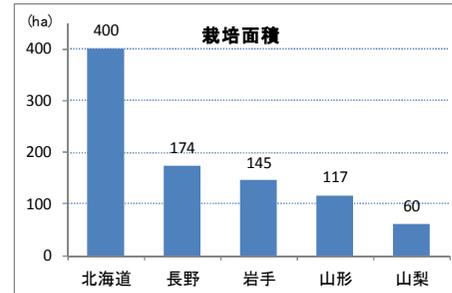
### (事例-1)『北海道チーズ&ワイン街道』

- 上川～十勝では、チーズやワイン関連商品を提供するレストランやショップを紹介し、新しい食ブランドと観光文化を創る『北海道チーズ&ワイン街道』を展開。

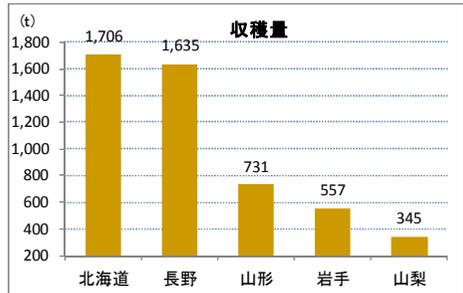
### (事例-2)「VINFROMAGE HOKKAIDO」(ヴァンフロマージュホッカイドウ)

- 北海道は、ワインとチーズにより新しい食文化づくり、ツーリズムやメニュー開発などを目指す運動(ワイン(VIN)とチーズ(FROMAGE)を合わせた造語)を展開。

【都道府県別 加工専用ぶどうの栽培面積】

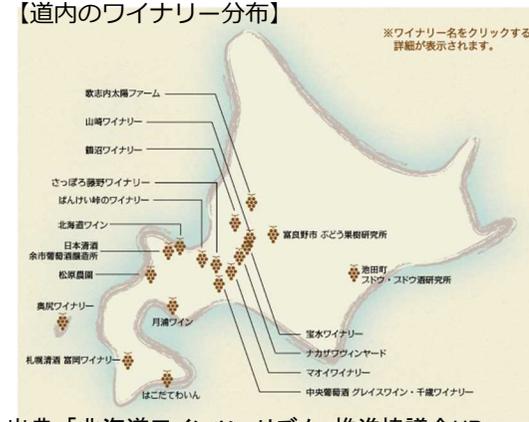


【都道府県別 加工専用ぶどうの収穫量】



出典: 農林水産省「平成24年産特産果樹生産動態等調査」を基に北海道局作成

【道内のワイナリー分布】



出典: 「北海道ワインツーリズム」推進協議会HP

【北海道チーズ&ワイン街道】



出典: 北海道チーズ&ワイン街道HP

【VINFROMAGE HOKKAIDOロゴ】



北海道の  
ワインとチーズ  
を楽しもう!

出典: VINFROMAGE HOKKAIDO  
公式フェイスブック

# 施策例)暮らしたい・訪れたいと感じる地域の魅力向上

## ○ 地域資源・観光資源を活かした交流拡大。

### 「(仮称)あつたか・あいろーど」(重点「道の駅」に選定)の整備

【道の駅の整備箇所】



- 札幌市と留萌市を結ぶ国道231号には道の駅が存在しない。日本海沿岸の最寄りの道の駅までは、約110km離れている。



【道の駅の整備内容】

- 日本海の奇岩や洞窟を見ることができる「浜益沿岸カヌー」や、国道が開通するまで、地域住民の生活道路として100年以上利用された歴史ある「濃昼山道トレッキング」等の地域固有のアクティビティガイド機能
- 地元農林水産物（望来豚、浜益牛、ホッキ貝、シャコ等）直売所の整備
- 無料公衆無線LANの整備
- 水彩画展、四季の味覚イベントの開催

【機能の例：まちへ呼び込むゲートウェイ機能】



道の駅は漁港に近接しており、地域の「食」を振る舞える場として機能

# 施策例)暮らしたい・訪れたいと感じる地域の魅力向上

## ○ 地域住民と行政の連携・協働によるインフラの維持管理。

### 地域住民と行政の連携・協働による冬期対策の取組事例(斜里町)

- ・ 地域ボランティアと道路管理者が連携した除雪により、流水景観が確保され、観光客の満足度が向上。
- ・ 流水が見える除雪に加え、臨時パーキング及び景観ポイントの設置により、観光客にもわかりやすい立ち寄る休憩ポイントが形成され、冬期交通における安全性の向上と地域観光資源の有効活用が実現。

【除雪の作業分担】

	道路管理者	地域住民・団体
事前除雪	期間前に実施	—
参加者募集	—	チラシ作成・配布
除雪ボランティア	参加	参加
管理	道路パトロールで確認	通行時に確認

【雪山からの景観】



【除雪による雪堤変化】

箇所名	除雪未実施	付帯除雪のみ	除雪ボランティア
オンネベツ	70cm	50cm (-20cm)	0cm
オシンコシン	70cm	50cm (-20cm)	0cm
三段の滝	100cm	75cm (-25cm)	0cm

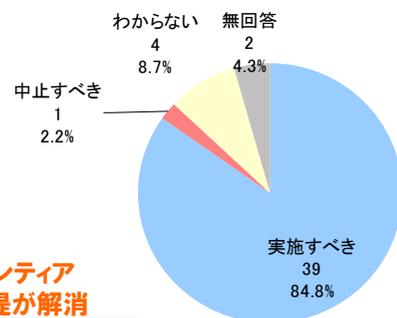
【雪山の設置状況】



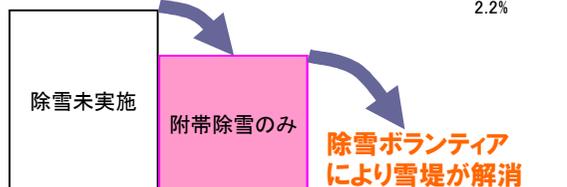
【情宣ポスター】



【参加者の取組継続に対する意見】



【除雪による雪堤変化】



#### ■ 参加理由

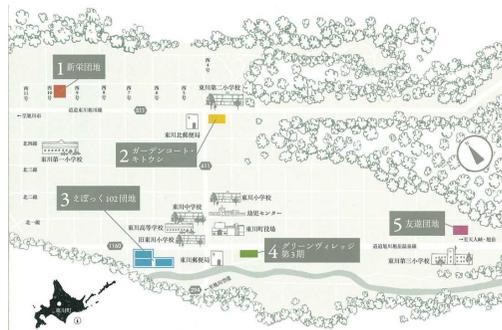
- ・ 観光客へ美しい景観を提供したい。
- ・ 地域の人と交流出来る。
- ・ 所属する団体が参加することを決めたので、参加した。

○北海道らしい「ふるさと定住」の促進。

景観に配慮した宅地造成の展開(東川町)

- 町内5箇所で特色のある宅地造成を展開。
- 「グリーンヴィレッジ」は中心市街地内にあり、徹底した景観コントロールにより、上質な居住空間を演出。旭川市への通勤層や転勤族の永住地として人気。
- 「友遊団地」は中心市街地から5km離れたエリアに農園付きの1区画180坪の団地を造成。約4割が道外からのシニア・リタイア層。
- 「北の住まい設計社」というハイセンスなデザインを売りにする設計事務所、世界的なアウトドアメーカーである「モンベル」のショップなどが立地し、東川町全体のブランドイメージ向上に貢献。その他カフェやパン屋、クラフト工房、ギャラリーなど個性あるおしゃれな店舗が道内外からの移住者によって起業。

【東川市街地と宅地造成箇所】



【景観に配慮した住宅団地のパンフレット(東川町)】



【グリーンヴィレッジ】



【友遊団地】



【ガーデンコートキトウシ】



【道の駅に隣接するアウトドアショップ】



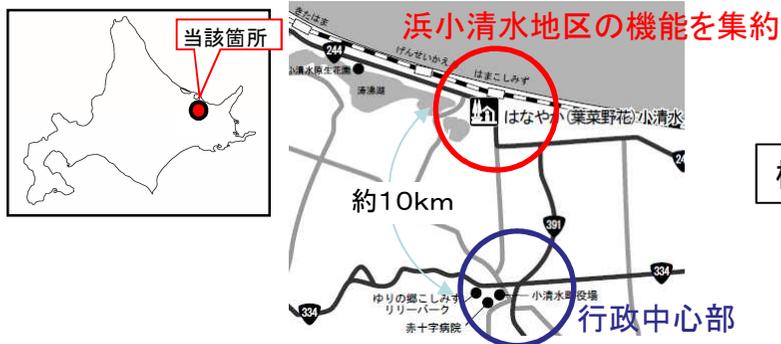
# 施策例) 地方部を支える生活機能・都市機能の維持・確保

## ○ 生活機能・都市機能の集約・連携による地域の拠点づくり。

### 【事例】市街地の機能集約による拠点づくり(小清水町)

- ・ 浜小清水地区内に分散していた役場出張所等の機能をJR駅付近に集約
- ・ 住民の暮らしを支える拠点としての役割を果たすと共に、小清水町の玄関口として、地域住民や観光客の集まるにぎわいの場、情報発信の場となっている

「はなやか(葉菜野花)小清水」(北海道小清水町)

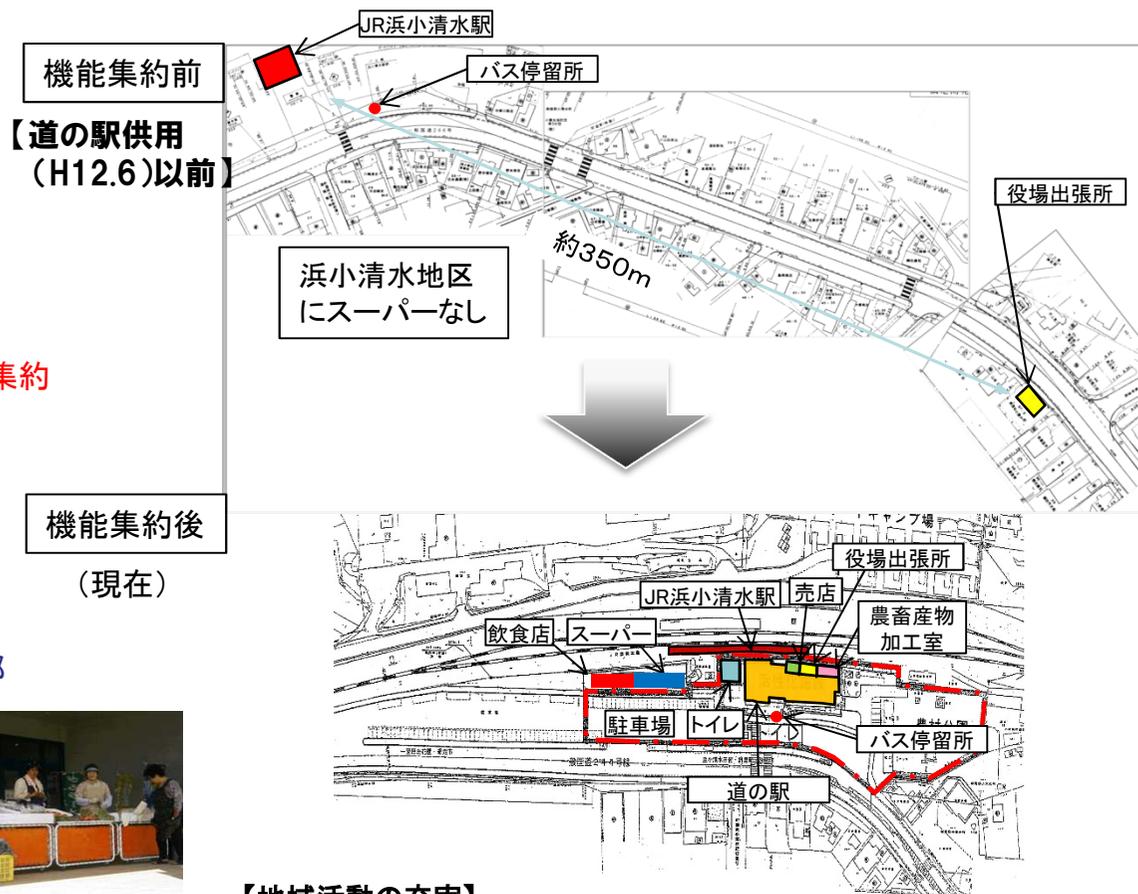


#### 【地域間を結ぶ交通の結節点】

- ・ JR浜小清水駅
- ・ バス停留所

#### 【地域内外との交流拠点】

- ・ 観光案内所
- ・ 地元野菜の直売所の設置



#### 【地域活動の充実】

- ・ 役場出張所(証明書発行、公共料金の支払い窓口)
- ・ 地域特産物販売＋日用品販売(隣接するスーパー)
- ・ 農畜産物加工室

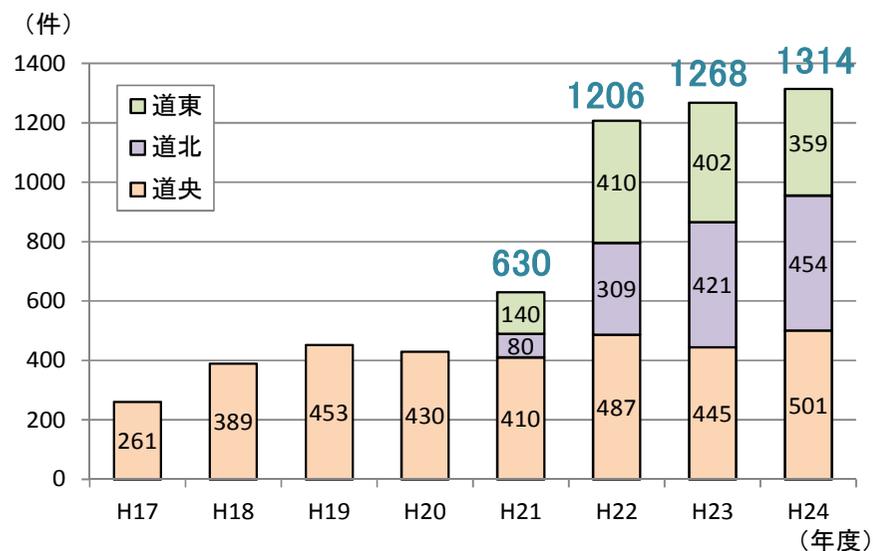
# 施策例) 地方部を支える生活機能・都市機能の維持・確保

## ○ 住民の暮らしを支える商業・医療・教育機能等の維持。

### 【事例】地域医療を支える救急搬送(ドクターヘリ)

- 北海道全体の救急出動件数は増加傾向にあり、地方部・都市部における救急搬送時間などに課題。
- 現在、道央(H17)、道北・道東(H21)、道南(H27.2)とドクターヘリの運航が開始され、出動件数は年間約400~500件に及ぶ。
- 冬期におけるランデブーポイント※の減少に対応するため、道内各地の開発局出先事務所や高規格道路の管理事務所等の敷地の提供に取り組んでいる。

※ランデブーポイント(RP)とは、事前に設定した離着陸場で救急車とドクターヘリが合流する場所



出典:ドクターヘリ基地病院の運航実績を基に北海道局作成

【ドクターヘリの離発着に関する現状と課題】 ランデブーポイントの確保

● 夏期 2,081箇所



冬期間は  
7割減少

● 冬期 604箇所

【冬期利用可能なランデブーポイント】  
(富良野道路事務所)



※北海道開発局調べ (H26.3現在)

※RP箇所数は厳密な数値ではなく前後する場合がある  
※このほかに、道南ドクターヘリの286箇所がある

## 施策例) 地方部を支える生活機能・都市機能の維持・確保

### ○ 地域の課題を解決するソーシャルビジネスの起業支援。

#### NPO法人の地域活性化活動の支援(遠別町)

- ・ 遠別町の地域おこし協力隊は任期終了後、2014年4月「NPO法人えんべつ地域おこし協力隊」を設立。
- ・ 遠別町との連携や支援を受けながら、地域活性化のための活動を実施。
- ・ NPO法人では、高齢者・障害者の生活支援、テレビ電話を利用したみまもり、町内イベントの開催及び各種イベントの支援、移住交流事業など、地域生活や地域PRなど幅広い分野に取り組んでいる。

【NPO法人えんべつ地域おこし協力隊の活動状況】



出典: NPO法人えんべつ地域おこし協力隊HP



#### 商店街空き店舗の活用(岩内町)

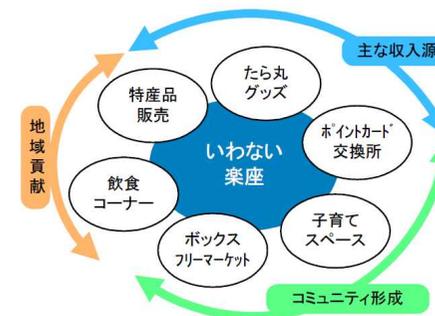
- ・ 岩内町名店街協同組合では、空き店舗対策として、コミュニティスペース「いわない楽座」を設立。
- ・ 岩内町の特産品販売、商店街ポイントカードの商品引き替え、ボックスフリーマーケット、子育てスペースの設置などを実施。
- ・ コミュニティ機能により大型店と差別化を図ることで「いわない楽座」への集客を図り、その集客を商店街利用へ結びつけるよう取り組んでいる。

【いわない楽座】



出典: 岩内観光協会HP

【消費者交流の考え方】



出典: 北海道コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス協議会「北海道のコミュニティビジネス・ソーシャルビジネス」(H21.3)

## ○ 地域の実情に応じた多様な公共交通の展開。

【事例】お客さま密着！で地域に貢献するバス会社の取り組み(帯広市など1市13町村)

- 十勝バス(株)は、十勝地域の帯広市をはじめとする1市13町村を主な運行エリアとして、カバーしている。十勝圏域において、乗合バスの利用者が昭和44年には年間2,300万人であったものの、平成22年には年間約400万人となり、ピーク時の約1/5倍まで利用客数が減少した。
- 戦略的な営業強化として、「路線バス沿線住民宅への個別訪問」や「不安を解消するためのバスの乗り方説明」、「あいさつやマイク活用の徹底」、「エリアを絞った目的別時刻表」、「対象者を絞った情報発信」、「日帰りバスパックなど目的提案」、「産学連携による路線バス目的地検索システム『もくいくう〜』の開発」などに取り組み、40年振りに利用客数が増加(全国初)。

【目的とセットになった手段;バス】

**【帯広駅発着】 北海道ガーデン街道で唯一公共交通バスにて気軽に巡れる施設**

**「真鍋庭園」バスパック**

**【パック内容】**  
 ①帯広駅/バスターミナル西4南39丁目/往復バス乗券  
 ②真鍋庭園入園料  
 ③カフェ ガーデンセンター共通10%割引券

**【おすすめポイント】**  
 24,000坪の面積に日本庭園・西洋風庭園・風情式庭園がバランスよく配置され、ゆっくりガーデン散策を楽しむことができます。日本最大級のコンパニーガーデンは必見。紅葉も楽しめます。

**【おすすめプラン】**  
 帯広駅/バスターミナル西4南39丁目 10:00発 → 真鍋庭園 10:30着 → 真鍋庭園 11:00発 → 帯広駅/バスターミナル西4南39丁目 11:30着  
 ※上記以外にもバスは1時間に1本の運行がありますのでお好きな時刻をお選びください。

●料金 帯広/電話 0155-46-2120  
 ※予約必須/https://www.tokachibus.jp/

真鍋庭園開園期間  
 大人/700円  
 小人/300円

**【帯広駅発着】 北海道遺産認定！世界で唯一の馬場**

**「ばんえい十勝」バスパック**

**【パック内容】**  
 ①帯広駅/バスターミナル/往復バス乗券  
 ②ばんえい十勝入園料  
 ③ばんえい十勝オリジナルグッズ(レース開催日のみ)  
 ④とちわら利用券(200円分)  
 ⑤とちわら利用券引券(利用券と併用は不可)

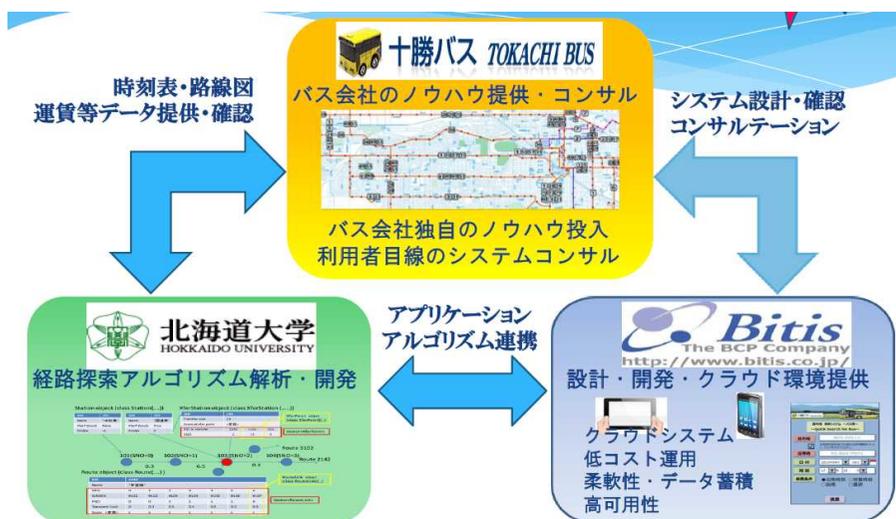
**【おすすめポイント】**  
 世界で唯一の馬場で、開拓の歴史をまえてきたばん馬たちのパワフルな姿、楽しさを堪能できます。また「バックヤードツアー」(無料)で牧場の裏側探検、「とちわら」では豪華なお酒席と十勝の食を堪能しくどうぞ。馬の資料館は十勝圏内に活躍した馬用馬を中心とした馬具や道具、資料の展示などの資料を展示しております。

**【おすすめプラン】**  
 帯広駅/バスターミナル(11:14発)→真鍋庭園(11:24着)→徒歩1分→ばんえい十勝馬場→徒歩1分→真鍋庭園(15:07発)→帯広駅/バスターミナル(15:22着)  
 ※上記以外にもバスは1時間に4本の運行がありますのでお好きな時刻をお選びください。真鍋庭園はバス・レース開催時に変更があります。ご確認の上ご利用ください。

●料金 帯広/電話 0155-34-0825  
 ※予約必須/https://www.ban-ei-10koku.jp/  
 帯広/電話 0155-34-7327  
 帯広/電話 0155-46-2120  
 ※予約必須/https://www.tokachibus.jp/  
 帯広/電話 0155-46-4169(内務係専用)  
 ※予約必須/https://www.tokachibus.jp/about/contact.html

先着順  
 運行(自)・レースは基本的に土日・月のみ  
 大人/500円  
 小人/350円

【十勝バス等産学連携による目的地検索クラウドシステム】



【エリア、対象を絞った利用促進策の『目的別時刻表』】

**目的別時刻表 (通院・買物編) 音更線**

7時台~21時台まで30分間隔で運行しております。  
 (時刻の詳細は十勝バス発行の時刻表をご参照下さい)

41 帯広駅前 → 音更

市内在住高齢者対象のワンコイン好評発売中

200m~300mおきにバス停がありますので最寄りのバス停をご利用下さい。

0155-23-5171

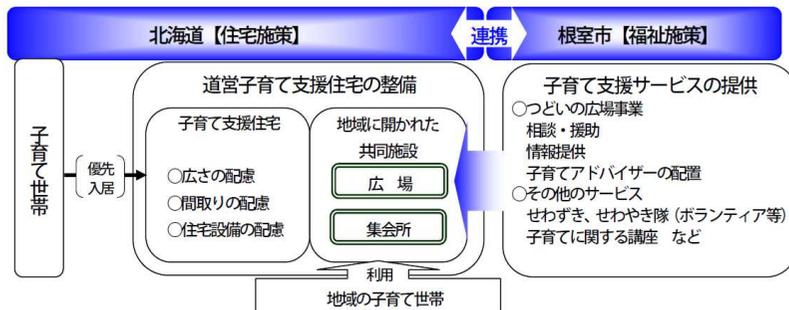
# 施策例)様々なライフステージに応じた生活環境の提供

## ○子育てに適したまちづくりの推進。

### 子育て支援に配慮した道営住宅(根室市)

- 「道営であえ～る明治団地」(根室市)は、子育てに配慮した仕様の公営住宅として、入居者や地域の子育て世帯が集う集会所・広場を併設した道営子育て支援住宅として平成18年度完成・入居開始。
- 北海道が住宅及び集会所等の共同施設を整備し、根室市がそれらの共同施設を活用して地域の実情に応じた子育て支援サービスを提供。

【道営であえ～る明治団地における北海道と根室市の役割分担】



出典:北海道「根室市道営であえ～る明治団地概要」

### 建設業による認定こども園の整備・運営(七飯町)

- 認定こども園どんぐり(七飯町)は、地域に密着している建設業者(株)八晃建設が保育施設の建設・運営事業に参入。
- 平成15年認可外保育施設として託児所をオープン、平成19年認定こども園(地方裁量型)、平成21年一部施設の認定こども園(保育所型)の認定を受ける。
- 「木育・食育・自然教育」をコンセプトに施設を運営。

【認定こども園どんぐり(七飯町)】



出典:認定こども園どんぐりHP

# 施策例)基礎圏域を支える都市機能の維持・強化

## ○医療、教育、商業機能等の都市機能の集積・高度化。

【事例】都市機能の充実、都心部の中心性を高める「北彩都あさひかわ」(旭川市)

- 都市機能の充実、都心部の中心性を高めるとともに、川の自然が都心の中に入り込んでいくような、水と緑豊かな賑わいのある拠点地区を目指すため、「北彩都あさひかわ」事業を実施。
- JR旭川駅の駅舎や駅前広場の整備、行政施設、公益施設、医療施設、商業施設の集積による旭川駅等利用者の利便性・快適性の向上による中心市街地への誘導を展開。
- この他、旭川駅南側の中別川河川緑地において市民協働のもと、旭川の個性を活かしたガーデンを造成し、市民や観光客を中心部に誘引し、賑わいの創出を図る。

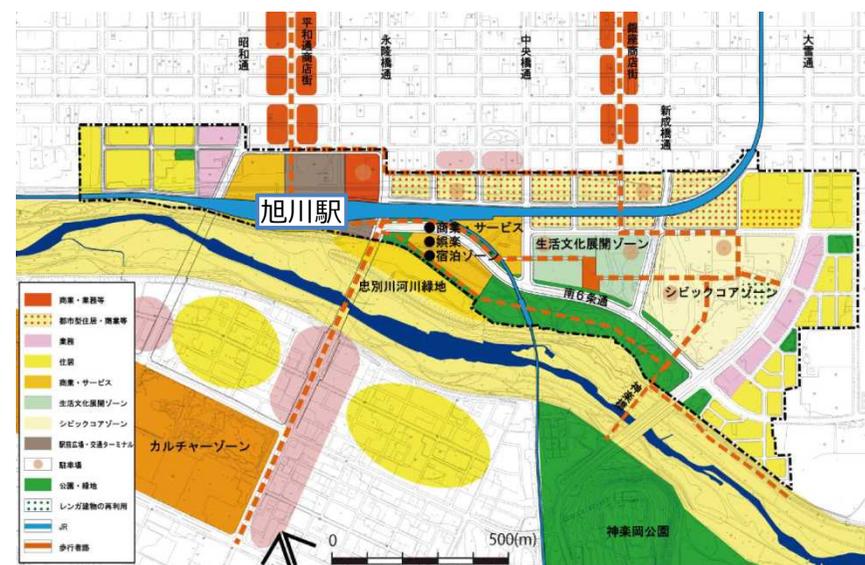
### 【「北彩都あさひかわ」の整備方針】

- 鉄道の高架と南北道路の整備  
鉄道高架、道路整備により都心を拡大
- 都心部に新たな機能を導入  
既存都心部との役割分担を明確にして、行政施設や公益施設、商業施設を導入
- 環境を活かした新たな都心づくり  
隣接する自然空間を都心にまで引き込み、自然環境を活かす
- 賑わいを創出する都心部づくり  
歩行者・自転車の利便性確保、冬でも訪れやすいまちづくりを目指す

【旭川駅及び旭川駅周辺】



【旭川駅周辺の土地利用計画】



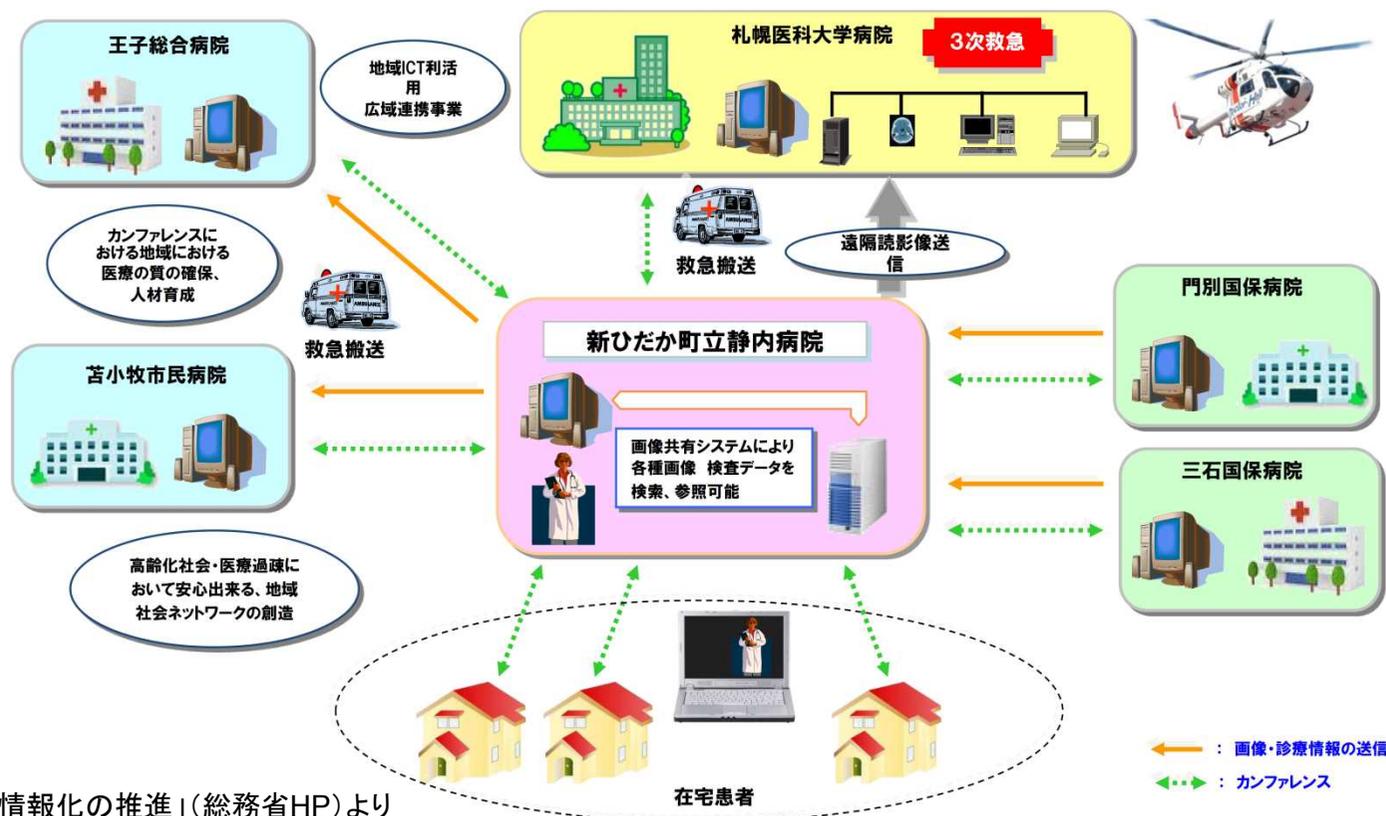
出典:旭川市資料

## 施策例)基礎圏域を支える都市機能の維持・強化

### ○ 医療、教育、商業機能等の都市機能の集積・高度化。

【事例】ICT利活用によるバーチャル総合病院実現事業(新ひだか町・札幌市・苫小牧市・日高町)

- 新ひだか町では、重症の患者が発生すると、地元で治療できない場合は、近隣の大規模病院のある苫小牧や札幌市まで救急搬送する必要
- しかしながら、苫小牧市は109km、札幌市は151kmと離れており、患者の経済的・肉体的負担が大きい
- 一方、町内には町立病院が二つ、民間病院が二つ、その他に眼科、耳鼻科、皮膚科、整形、在宅医療や脳神経クリニックが存在
- これらの病院・診療所が持っているデータや知見をICTを活用した連携により、患者の負担や医療費の減少につなげる事業に取り組んでいる



出典:「地域情報化の推進」(総務省HP)より

# 施策例)基礎圏域を支える都市機能の維持・強化

## ○人々が集まるにぎわい空間の創出・交流機能の促進。

(事例)中心市街地における拠点機能の整備(稚内市)

- 稚内市では、中心市街地の活性化を目指して、稚内駅周辺に交通、商業、情報発信、福祉など多くの機能を集約した複合的な公共施設である「キタカラ」を整備している(市街地再開発事業であり、国道整備事業とも連携して実施。平成24年4月に開業。)
- 複合施設には、稚内駅の機能に加え、映画館(市内に映画館ができたのは20年ぶり)のほか、観光協会窓口、子供のプレイスポット、多世代交流ロビー、市民活動室、コンビニエンスストア、バス待合所、サービス付高齢者福祉施設、土産品店、飲食店などの機能が含まれている。
- 平成25年度で年間64.3万人もの利用者があり、多くの市民や観光客で賑わう拠点空間となっている。

【商業機能(土産品店)】



【娯楽機能(映画館)】



【情報発信機能(道の駅)】



【情報発信機能(観光協会)】



【キタカラ施設外観】



【賑わい創出機能(プレイスポット)】



【交通機能(バスターミナル)】



# 施策例)基礎圏域を支える都市機能の維持・強化

## ○人々が集まるにぎわい空間の創出・交流機能の促進。

### 【事例】歩道空間上の食事・購買施設「大通すわろうテラス」(札幌市)

- 平成23年10月の都市再生特別措置法の改正を契機に、札幌市より「都市再生整備推進法人」の指定を受けた札幌大通まちづくり株式会社によって、国道36号札幌駅前通歩道部にて食事・購買施設等の整備を進め、「大通すわろうテラス」とし開設。
- 様々な取組を通じて市街地のにぎわい空間を創出。また、併設している広告塔もビールメーカーや地域の大型店のイベント告知等でも利用。

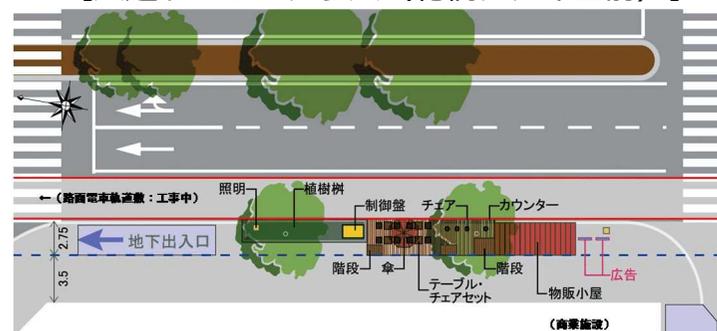
#### 【大通すわろうテラスでの実施実績】

- カフェ等の喫茶店営業
- 地域の高校生が商品開発した飲食店営業
- 地域の父母等によるバザー
- 歩行者天国で実施している沿道商店街のお祭りでの出店
- サッカーワールドカップのパブリックビューイングに合わせた物販
- 地域球団とのコラボによる喫茶店
- 外国人観光客を対象とした和をコンセプトとした喫茶店
- ビアガーデン時期に合わせた軽食+バー
- 道産酒を主体とした立ち飲みバー等

【大通すわろうテラスの位置】



【大通すわろうテラス（札幌ナナイロ前）】





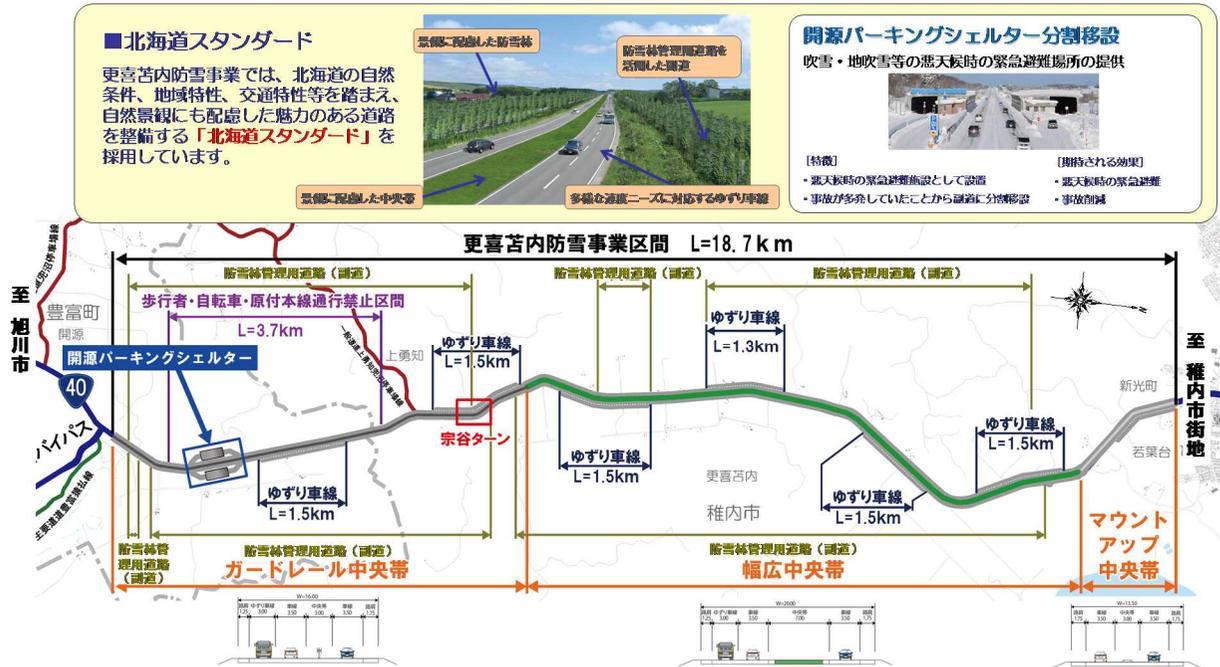
# 施策例)圏域内外の広域な交流を支える交通基盤の整備

## ○都市間の時間距離を縮める高規格幹線道路等の整備。

【事例】北海道スタンダードのさらなる深化・展開(更喜苫内防雪)

- 北海道では、従前から積雪寒冷気象に対応した道路整備を実施。平成15年の道路構造令改正を受け、さらに地域連携・協働性の視点も加え、北海道の地域の個性と調和した新たな「北海道スタンダード」として取り組んできたところ。
- 今後は、“今ある道路空間を賢く使う”、“利用価値を高める”ことをコンセプトに北海道スタンダードをより一層推進。

【国道40号更喜苫内防雪の整備事例】



【新たな「北海道スタンダード」の方向性】

- クルマ重視から人とモビリティの共存を図る道路空間整備
- 北海道特有資源を活かした新たな観光需要を創出と多様な広域観光の支援
- 国土強靱化への貢献

■事業概要：地吹雪による視程障害、危険箇所の低減を図り、道路の安全な通行の確保を目的とした延長18.7kmの防災対策事業。

<p><b>防雪林</b> 吹雪や吹きさらしに対しても通行止めにならない信頼性の提供</p> <p>【特徴】 - 積雪が森林の樹冠により荷重からの雪溜りに対抗 【期待される効果】 - 吹雪や吹きさらしの視程障害を低減 - 北海道らしい自然な道路空間を創出</p>	<p><b>ゆずり車線</b> 多様な速度ニーズを満足する速達性・快適性の提供</p> <p>【特徴】 - ゆずり車線設置により、安全安心な道路機能を創出 【期待される効果】 - 低速車への追従容易 - 運転者へのストレスのない通行性を確保</p>	<p><b>中央帯</b> 事故なく走行できる安全性の提供</p> <p>【特徴】 - 地形に合わせて3つのタイプを採用し、上下段を明確に分離 - 人工物を極力排除した幅広中央分離帯を採用 【期待される効果】 - 正面衝突の危険を低減 - 多様な速度による追従容易性の確保 - 宗谷地域の景観に配慮した道路空間の構築</p>	<p><b>宗谷ターン</b> 安全性・走行性を高めた新たな交差点(宗谷ターン)の導入</p> <p>【特徴】 - 交差点開口を狭くせず、交差点機能を分散化することにより安全な通行性を確保 - 右折車線により右折や左折の進行方向を明確に分離 【期待される効果】 - 安全性と交通円滑性を確保する - 歩行者・自転車・原付本線通行禁止区間で歩行者が通行を確保するため、道路空間を確保し(歩道から本線への出入りを確保)のメリット</p>	<p><b>防雪林管理用道路(副道)</b> 防雪林管理用道路の活用による安全性・円滑性の提供</p> <p>【特徴】 - 防雪林管理用道路を副道として開設 - 本線を副道で走行する際、副道利用時の視程確保、歩行者や自転車の通行との混雑を低減 【期待される効果】 - 安全性と交通円滑性を確保する - 歩行者・自転車・原付本線通行禁止区間で歩行者が通行を確保するため、道路空間を確保し(歩道から本線への出入りを確保)のメリット</p>
---	--	--	--	---

# 施策例)圏域内外の広域な交流を支える交通基盤の整備

## ○ 北海道新幹線とそれに関わる二次交通の整備促進。

北海道新幹線開業を見据えて発売されたエリア内バス乗り放題チケット「江差・松前千年北海道手形」(道南地域)

- 平成27年度に北海道新幹線木古内駅の開業を控える木古内町では、駅の利用が想定される周辺の8町と共に「新幹線木古内駅活用促進協議会」を組織し、二次交通の整備に向けて取り組んでいる。
- 新幹線の利用客に対し、木古内駅を拠点としたバス交通の利便性向上を図ることを目的として、函館バスと連携し、道南西部地区の路線バスと定期観光バスが3日間乗り放題となる「江差・松前千年北海道手形」を発売したほか、手形を活用した旅行商品の開発なども検討を行っている。

道南全域への開業効果の波及を目指したタクシープランの検討(檜山振興局)

- 平成26年度、北海道や道南地域の市町村では、北海道新幹線開業に向けた二次交通網整備に向け、地域のタクシー会社等との連携により、タクシープランの開発に向けた実証事業を行っている。
- 実証段階では、新幹線開業効果を道南全域に波及させることを目指し、新幹線駅所在エリアだけでなく、八雲、江差から道南地域の各エリアの観光スポットを結ぶタクシープランの販売を試行した。

【エリア内バス乗り放題チケット「江差・松前千年北海道手形」のPR用素材】



出典:新幹線木古内駅活用促進協議会資料

【北海道新幹線開業を見据えたタクシープランの実証実験用PR素材】



出典:北海道オプションルツアーズ